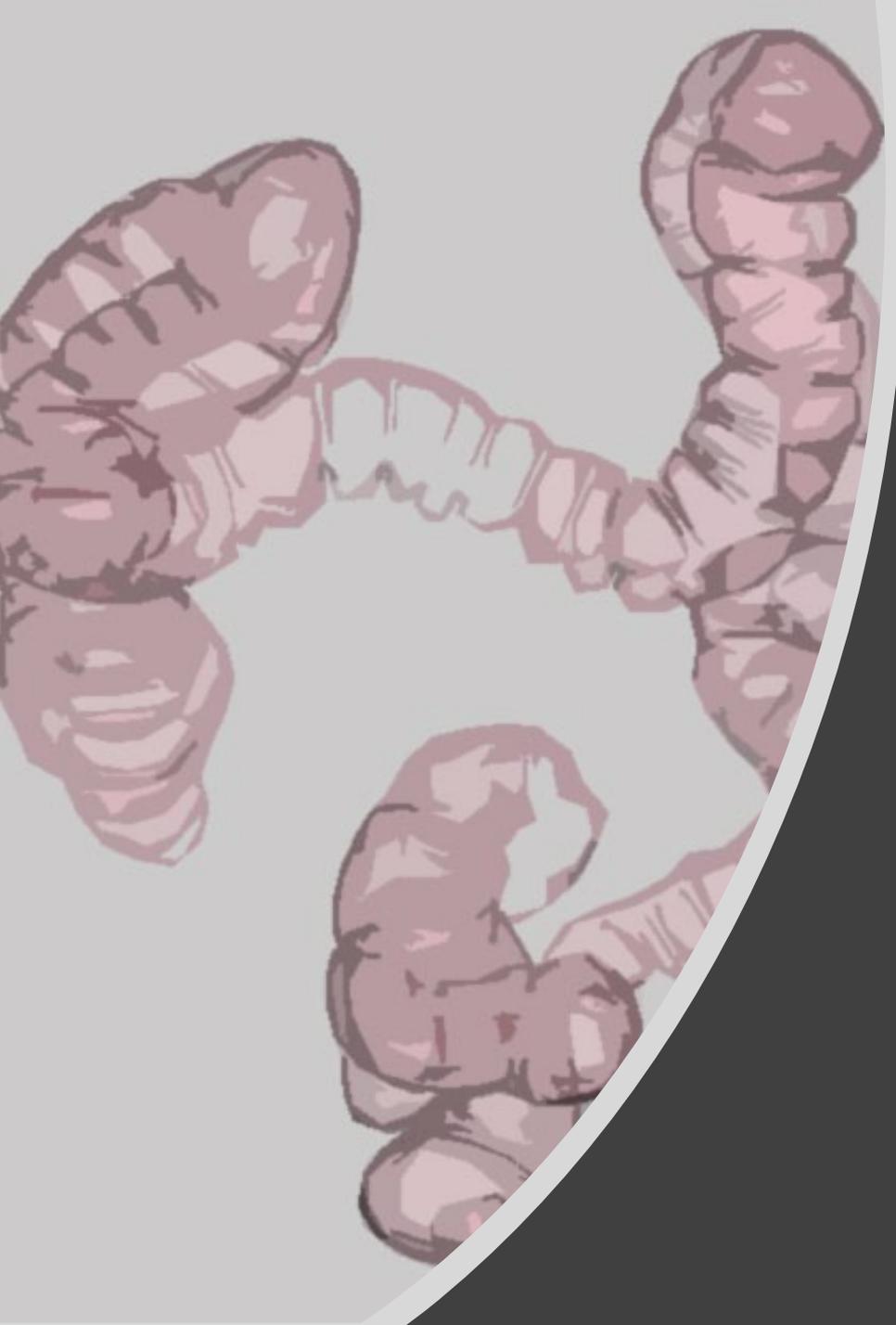


CTCメルマガ vol.61
2024.6.14

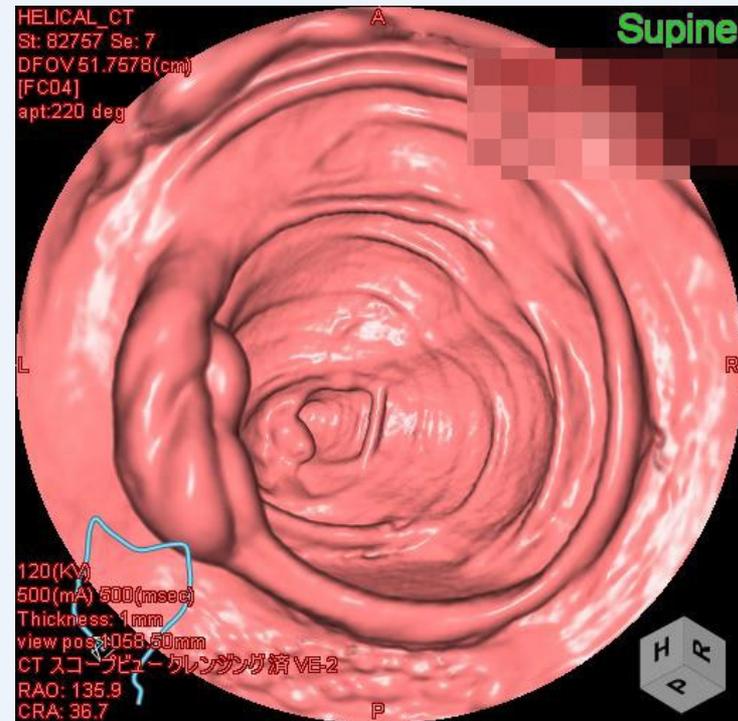
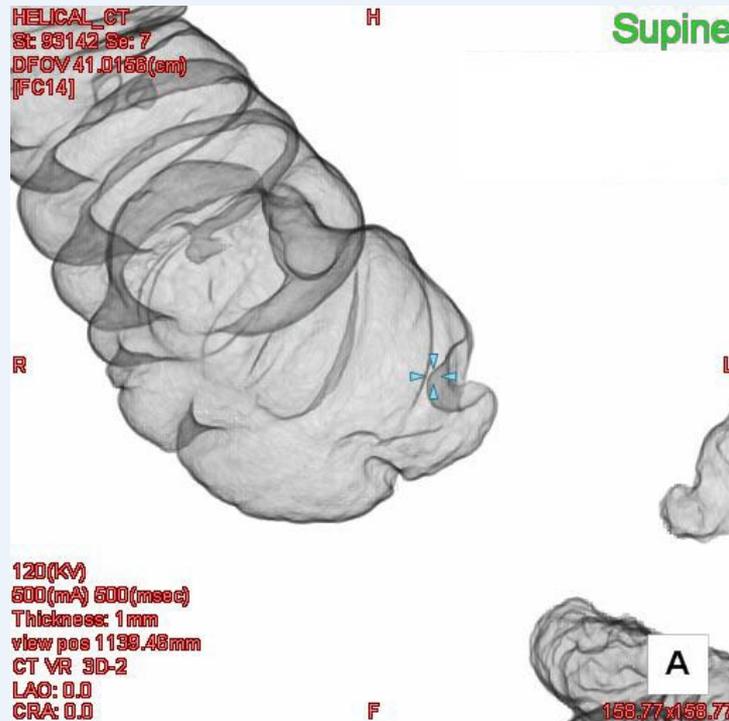
症例提示 古今東西
(舞鶴共済病院)

Presented by Daisuke Tsurumaru
Radiology Dept. Kyushu Univ.

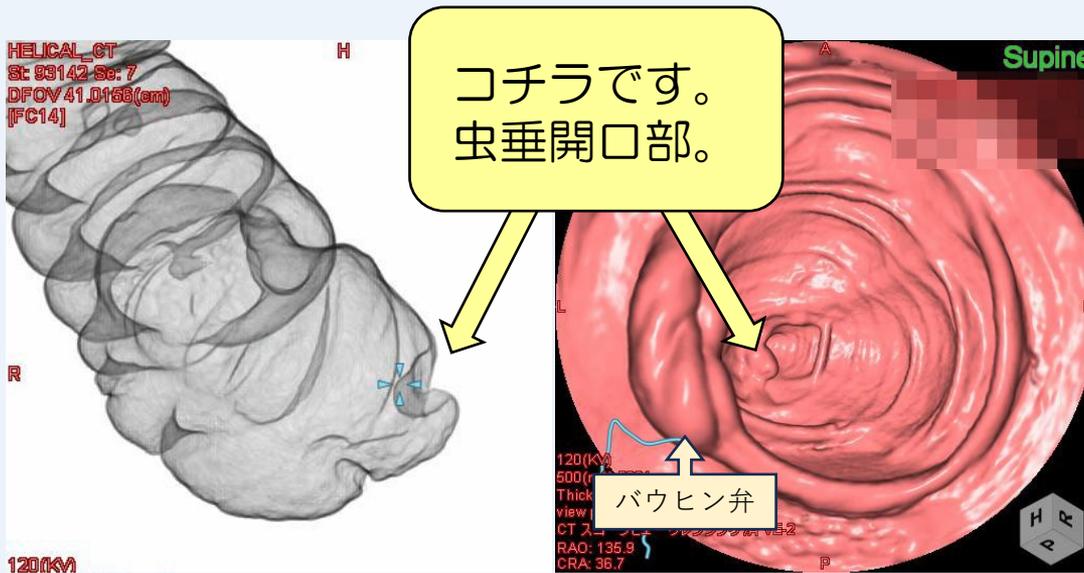


舞鶴共済病院からの症例提示です。

症例 40歳代・男性 40 YO male underwent CTC as a surveillance
病歴 S状結腸癌術後のフォローアップ目的に大腸CTを受けた。
*虫垂炎手術歴あり。
Post-appendectomy

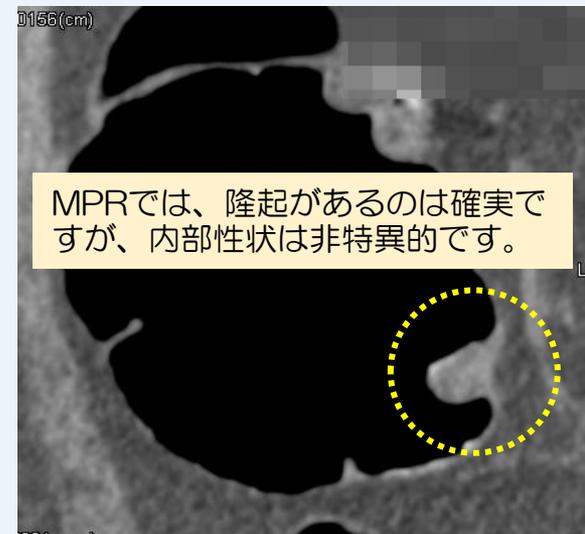
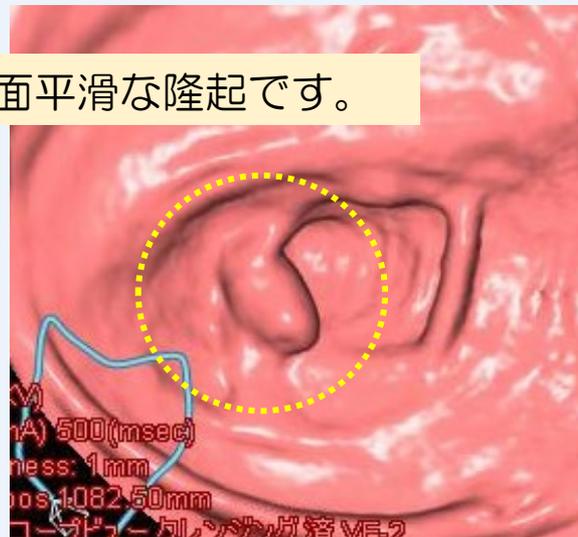


異常はどこでしょう？



Polyp-like lesion at appendiceal orifice

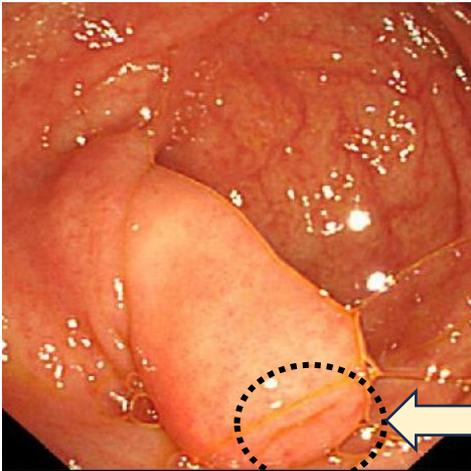
仮想内視鏡では表面平滑な隆起です。



Appendiceal tumor?

通常のポリープの他、局在からは翻転虫垂や虫垂腫瘍が鑑別に挙げられます。

内視鏡ではどうでしょうか。

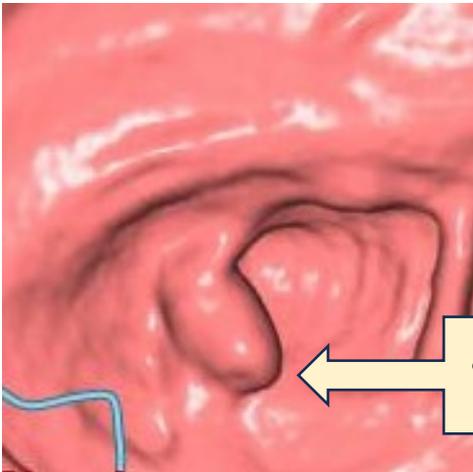


内視鏡でも大腸CTと同様に表面平滑な隆起です。あたかも虫垂開口部から飛び出したような形態で、柔らかい性状も推察されます。頂部にへこみがあります。

頂部がへこんで見えます。

診断：翻転虫垂

Inverted appendix, endoscopic diagnosis



内視鏡と対比させると、大腸CTでも内視鏡所見が良好に描出されています。

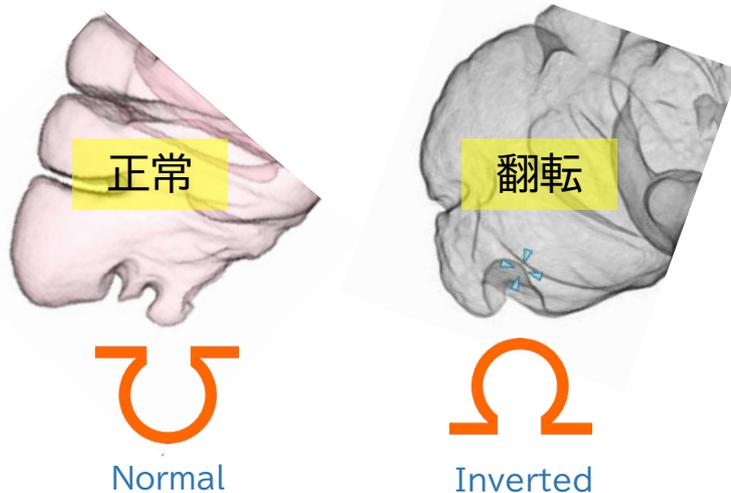
よく見ると大腸CTでも頂部のへこみが？

翻転虫垂 (Inverted appendix)

翻転の代わりに、反転、内反といわれることもあります。

翻転虫垂(ほんてんちゅうすい)とは、虫垂が正常な位置から反転して腸内に入り込む稀な状態を指します。この現象は虫垂が腸管の中に引き込まれて、内部に逆流するような形態をとることを特徴としています。

通常、虫垂は盲腸の外側に位置していますが、翻転虫垂では虫垂が腸管内に引き込まれ、腸内で逆向きになっています。



内視鏡所見: ポリープ状もしくは結節状病変、盲腸腔への指状の突出、中央部のくぼみ
* 盲腸ポリープと誤認され、ポリペクトミーで切除されることがある

Caution! Do not polypectomy!

Birkness J et al. Histopathology. 2019; 74: 853-860